岐阜大学機関リポジトリ
Gifu University Institutional Repository

血液型物質のヒト組織における超微形態学的分布に関する研究

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2008-03-12 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 武内, 康雄 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12099/177

はしがき

法医学の鑑定の実務として、分泌物からの血液型検査は日常的に行われており、分泌物からの血液型判定における重要な課題の一つとして、特に混合斑痕からの血液型判定があげられる。混合斑痕からの血液型判定に関する研究は広く行われているが、法医学の実際領域の応用にはいくつかの問題点もある。その一つとして、血液型物質がどのようにして細胞内で産生されているのかについて詳しい研究がほとんど行われていないことが指摘される。

最近、われわれは血液型物質の組織内分布について、AB型個体でのAおよびB型の血液型物質の分布について検討し、同一組織内での両血液型物資の分布に細胞レベルで差のあること、つまり、A型、B型の両血液型物質を産生する細胞やA型血液物質を産生する細胞、B型血液型物質を産生する細胞、いずれの血液型物質も産生しない細胞が混在することを明らかにし、AB型の分泌物中にはAB型物質やA型物質、B型物質が混合して分泌されている可能性を示唆する所見を得ている。

このような血液型物質の分布の違いが細胞レベル、つまり、同一の細胞内の小器官においても認められるかどうかについて詳しく研究することは、細胞学的な面からも興味が持たれるのみならず、体液中への血液型物質の分泌、すなわち、われわれが日常的に取り扱っている体液斑痕の基本的な性状をよく理解するためにも重要なことと考えられる。

したがって、本研究では細胞レベルでの血液型物質の分布を明らかにするために、手術摘出標本を用いて、ABH血液型物質の超微形態学的分布を観察し、ついで、分泌液中への血液型物質の分泌について考察した。